

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成 25 年度第 1 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	平成 25 年 10 月 28 日 (月) 午後 6 時から午後 8 時まで		
開催場所	小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室		
出席者	委員	<出席者：9名> 大江会長・松村副会長・加藤委員・竹内委員・清水委員・多田岳人委員・佐野委員・簗口委員・渡辺委員 <欠席者：5名> 波多野委員・多田典子委員・鈴木委員・勝又委員・北澤委員	
	事務局	中谷環境部長・小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・秋元ごみ対策課長補佐・花野・井上・八方・佐藤	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	1
会議次第	1 開 会 (1) 事務局報告 (2) 委嘱状の伝達 (3) 委員紹介 (4) 事務局紹介 (5) 会長選出 2 議 題 (1) 平成 26 年度一般廃棄物処理計画の策定について (諮問) (2) 報告事項 可燃ごみ処理の状況等について (3) 平成 26 年度一般廃棄物処理計画の策定について (審議) (4) ごみ減量かるたの標語最終審査結果について 3 その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他	次回開催予定 平成 25 年 11 月 21 日 (木) 小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室		

審議過程（主な発言等）

松村副会長	<p>現在、会長が不在なので、副会長である私が進行役を務めさせて頂く。まず、事務局から報告してもらおう。</p>
秋元ごみ対策課長補佐	<p>会議開催に先立ち、事務局よりいくつかご報告をさせて頂く。平成22年度から平成23年度まで副会長として、平成24年度から会長として職を引き受けて頂いていた植村利男委員から本審議会の委員を辞したいとお話があり、これまでの功績や尽力を考え、慰留して頂けるように説得をしたが、ご本人の意はどうしても変わらないとのことであるため、一身上の都合により、平成25年9月2日をもって本審議会委員を辞職された。本件については、事務連絡での通知という内容ではないことから、正式な審議会の場において報告させて頂く。</p> <p>また、小金井市廃棄物減量等推進審議会規則の第3条にて会長が欠けた際には、副会長が職務を代理するとなっていることから、本日の進行は新会長が選出されるまで、副会長である松村副会長に職務代理を務めて頂くこととなる。</p> <p>なお、植村委員が辞職したことでの審議会委員の選任についてだが、「小金井市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例」及び「小金井市廃棄物減量等推進審議会規則」等関係例規により、構成は15名以内とし、そのうち学識経験者は3名以内として、市長が委嘱するとある。また、任期は2年間であり、再任は妨げないとしている。ただし、委嘱期間中に新たに補われた委員の任期は、前任者の残留期間としている。植村委員から後任者として、亜細亜大学経営学部経営学科教授の大江宏先生を推薦して頂いている。大江先生には、平成16年度から21年度まで当審議会の委員をお願いしており、会長職も引き受けて頂いた。当時、戸別収集の開始や家庭ごみの一部有料化の開始、平成18年10月1日には、ごみ非常事態宣言が出される等、小金井市のごみ行政は大変苦慮する中、多大な功績があったこと又市長からの推薦もあったことから、委員の委嘱をさせて頂くこととなった。</p>
松村副会長	<p>では、市長が公務で外出中であるため、三木副市長より委嘱状を伝達して頂く。</p>
三木副市長	<p>(委嘱状伝達)</p>
松村副会長	<p>続いて、三木副市長から一言ご挨拶を頂きたい。</p>
三木副市長	<p>本日は、平成25年度第1回小金井市廃棄物減量等推進審議会へのご出席、そして、大江先生には、委嘱状を快く受けて頂いたことに感謝申し上げます。小金井市の可燃ごみは、平成19年3月に二枚橋焼却場の全ての炉を停止して以降、多摩地域の多くの団体のご理解・ご協力のもとに処理して頂いている。更に、今後新たな焼却場が稼働するまで支援をお願いし続けなければならない。小金井市の最重要課題であるごみ処理問題だが、現在、日野市・国分寺市・小金井市の3市による可燃ごみの共同処理実現に向け鋭意協議を進めているところである。日野市では、去る6月26日から7月5日まで日野市全域を対象としたごみ処理広域化のための説明会を計8回開催して頂いた。その際、他市のごみを受け入れる理由は何なのか、排ガス量の増加による健康被害への不安等、多くのご意見を頂いていたが、日野市では、周辺住民の皆様には丁寧な対応を図っていく方針であ</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>ると伺っている。小金井市としても、日野市民の皆様の不安を少しでも解消するために、与えられた役割を誠実に果たし、共同処理実現に向けて最大限の努力をしていく。また、可燃ごみの量が年々減少していることに対して、市民の皆さんの不断的努力に敬意を表するとともに感謝申し上げる。審議会の委員の皆さんには、平成26年度小金井市一般廃棄物処理計画について、専門知識や市民感覚を教示頂きながら、積極的に議論して頂きたい。</p>
松村副会長	<p>新たに委員となられた大江委員よりご挨拶を頂きたい。</p>
大江委員	<p>先般植村先生から体調を崩したということで相談があった。今さら自分がという思いもあったが、健康上の理由ということだったので、候補者の一人としてもらっても良いと返答した。</p> <p>私は、個人的に小金井市に縁があるので小金井市のごみ問題は是非とも片付けて欲しいという気持ちをずっと持っていた。あれから4、5年経っても未だ難しい段階にあるので、何ができるか分からないが、残りの期間、務めさせて頂ければ有難い。</p> <p>私の専門は環境マーケティングである。よって、ごみとは直接的には係らないが、心掛けているのは、次世代に環境問題やごみ問題をどう伝えていくのか、そのために、小学校4年生が見学するクリーンセンターへ大学1、2年生を連れて行ったり、また大学の近辺にあるビオトープとまだ手を付けていないところを歩きながらこういう風にしていくと自然が蘇ってくるということを伝えながら、若者たちには環境問題やごみ問題に関心を持ってもらいたいと思っている。そのように、教育現場に軸足を置きながらやっていくことが自分の務めではないかと感じている。小金井市との係りで今言えることは何もないが、もし、文系的な発想で何かやれる分野の方に考えを広げて見ると、私が在任していた当時、生ごみ処理機の使用実態や効果について、質問をしたりアンケート調査を見せてもらっていたが、どのように検証しているのかまだ体系的な分析はなかったように思う。そのような小金井市民が関心を持って取り組んでいることが無駄にならないように、少しでもその本来の効果を発揮して欲しいと考えている。また、私が在任していた当時、非常事態宣言が出ている中で、市長が駅頭に立ったりして、一時期盛り上がった時があったが、今はどうなのか。非常事態宣言が今も続いているのは、解決が遅々として進まないということだろう。そういうところに対して、市民のライフスタイルをどんな風にしてごみの意識を高める行動に繋げていけるのか、係っていかなければならない分野ではないか。一人ひとりが何をするのか、そこへ行政、事業者、市民が全力を挙げて取り組めるかどうかを鍵だと思っている。そして、それを実行するためにはどうすれば良いか、智恵を絞っていただければと思う。これまで、幾つかの自治体と係ってきた経験から言うと、一番大事なのは社会における信頼関係だ。信頼関係が基盤にないと、どんなことをやっても駄目だ。信頼の基盤は、行政と市民、事業者がどれくらい力を併せて信頼関係を築けるか、建設的なお互いの歩み寄りがあれば上手く行くのではないか。本日の会議も協力して市民が集まっており、行政も会議に臨んでいる。市民と行政が近いところで共同作業する自治体も見ているので、そういうところへ行かないと物事は前へ行かない。皆さまの中へ入って行かせて頂けるなら、そういう気持ちで臨んでいるということをご理解頂ければ嬉しい。</p>

審議過程（主な発言等）

松村副会長	<p>では、大江委員が加わり初めての審議会であるため、各自の自己紹介をお願いしたい。</p> <p>(各委員・事務局職員自己紹介)</p>
松村副会長	<p>では、会長の選出をしたい。立候補される方はいないか。</p>
委員各位	<p>(立候補なし)</p>
松村副会長	<p>立候補がないようであるので、推薦による承認ということではいかがか。</p>
委員各位	<p>(異議なし)</p>
松村副会長	<p>どなたか推薦をして頂きたい。</p>
渡辺委員	<p>会長の経験もあり、植村先生からの推薦もあることから、大江先生にお願いしてはいかがか。</p>
佐野委員	<p>大江先生に覚悟のほどを聞きたい。</p>
大江委員	<p>今の段階で何も言えることはない。審議会の位置づけは行政に対する諮問・答申機関である。何のためかと言うと行政の計画立案に対する色々な視野を入れた質の高い政策を立案してもらうために、行政とは別の組織として、我々が係って良い議論をして、それを行政に返すということだ。それを考えれば、私個人の云々ではなく、どんどん良い意見を出しながら、この中で共有し、行政と一緒にやって行けるようにしたいという思いがある。</p>
松村副会長	<p>技術的には問題はないと思う。私たちが、人が何を考え、どういう行動を取っているのかということから取り組める手法について、こういう時はこういうやり方があるのではないかとバックアップすることで、この会を盛り上げていけるのではないか。是非、大江先生にお引き受け頂きたい。</p>
大江委員	<p>環境技術が半分、それから仕組みが半分、つまり、技術的に解決を図り、それを上手く社会的に導入していけるようにしていくということが大切であり、そのためには皆で力を併せていくということだと思う。</p>
加藤委員	<p>あまり負担に考えなくても良いのではないか。会議であれば皆の意見の交通整理というところもあるし、行政とのコンタクトもあるだろう。私も今年度も具体的なことを発言しようと思っている。時に行政にとって厳しい意見になるかも知れないが、大江先生を盛り立てて行きたいので頑張って頂きたい。</p>
委員各位	<p>(拍手により大江委員の会長職への就任を了承)</p>
大江会長	<p>前回の会長の時と全く違って、一層この委嘱状の重みを感じている。皆さんと</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>力を併せてやって行きたいので、事務局も一丸となって頂きたい。</p> <p>では、本日の議題に入りたい。議題（１）平成２６年度一般廃棄物処理計画の策定についての諮問を事務局よりお願いしたい。</p>
三木副市長	（平成２６年度一般廃棄物処理計画の策定（諮問））
大江会長	<p>なお、三木副市長だが、他の公務があるためここで退席する。</p> <p>（三木副市長退席）</p>
大江会長	<p>只今、諮問を頂いたので、次の報告事項に入りたいが、その前に事務局から配布資料について説明して頂きたい。</p>
佐藤減量推進係主任	（配布資料の確認）
井上清掃係長	<p>（ごみ減量かるた作成の目的・ごみ減量かるたの標語最終審査概要について説明）</p> <p>（投票用紙回収）</p>
井上清掃係長	<p>議題（４）で最終審査の結果を発表したい。その際、その句が入選した場合は、応募者に了解をもらう予定だ。</p>
大江会長	<p>では、議題（２）報告事項可燃ごみ処理の状況等について報告して頂きたい。</p>
藤田ごみ処理施設担当課長	（燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について資料説明）
大江会長	質問・意見はあるか。
加藤委員	<p>前回の建設環境委員会を傍聴した時に比べれば、前進していると思う。家庭系よりも事業系のごみが減っているところが大きな特徴ではないか。市を通さないで、直送分が増えたことが影響していると思う。５％という目標は大変厳しいが、その半分に達したということはそれなりに成果があったと思う。しかし、家庭系ごみの減量が完全にストップしている状態なので、今年度下半期で家庭系ごみ減量のために、どう市民に働き掛けて行くのが課題だ。家庭系の減量率が年々減少しているので、これについて解説して頂きたい。</p>
佐野委員	<p>事前に行政から報告されてしかるべきだ。また、我々は情報を持っていないので、何故こうなったのか説明があるべきだ。</p>
渡辺委員	<p>この間の市の人口はどうなっているのか。一人当たりでは減っているのか。</p>
大江会長	<p>これら３点について事務局に補足説明して頂きたい。</p>

審議過程（主な発言等）

小野ごみ対策課長	人口については、平成24年度と平成25年度を比較すると、約1,000人増えている。一人当たり可燃ごみについては、約2.6%減を見込んでいる。
大江会長	ごみ減量の理由について、事業系は若干減っているが、家庭系は停滞しているということに関してはいかがか。
小野ごみ対策課長	まず、事業系についてだが、昨年の10月から収集形態が変わった。それまでは、調布市の積み替え施設で積み替えて民間の施設へ持って行っていたが、調布市の施設がなくなったので、貫井北町にある中間処理場で移し替えをして、民間の施設へ持って行っている。各収集運搬許可業者の中には、直接民間の処理施設へ持って行く業者があるので、事業系については減っている。それらの業者については、市で数値としては把握していない。
佐野委員	注釈を書かないと誤解される。
大江会長	報告の時に単純質問に当たるところはきちんと説明して頂きたい。そうすると理解しやすいし、委員の視点での大事な質問に留まり、協議が進められると思う。家庭系ごみが停滞していることが一番大事なところだが、すぐに理由は出ないところだと思う。
佐野委員	数字が減っているには理由があるはずだ。施策をやっているから減るはずだ。
清水委員	ごみの減量傾向よりも施策に対する効果を知りたい。市民まつりや阿波踊り、さくらまつり等でごみが大量に出るが、市が回収するのではなく、店に引き取ってもらっている。ごみは店に返したり、持って来たごみは持ち帰ってもらっている。ごみを出さないというのではなく、ごみ箱を置かないだけだ。会場にごみはないが、どこかに行っている。それでは、ごみを減らしたことにはならないので、今年度からリユース食器を普及させようとの施策を行っており、予算もついている。新しい施策の効果はどうか、報告して頂きたい。実際、商工会では2、3年前から主催者が負担してリユース食器を使っていた。今年は市の補助金を使って大量に用意したが、2日のうち1日が雨だったので、トータルとしてあまり実績が出なかった。市でリユース食器を扱っているということが主催者に伝わっていないようであり、市は積極的にPRしていないのではないか。
大江会長	実際、特定の事象をどれだけ正確に測るかは難しい。効果測定についての共通認識を持って、事前にお互いで相談しておくことが重要である。
佐野委員	先程のかるたの件だが、審議会の委員なのに今まで知らなかった。何の目的で誰が決めたのか。事前に知らせるべきだ。
加藤委員	事前を送付して頂いた資料の中に、7月からリユース食器の貸し出しを実施し6件、3,600個の実績があるとされているが、その検証として、どういった不都合があり、これからどうしていこうとしているのか等いくつか質問がある。

審議過程（主な発言等）

佐野委員	私もリユース食器を使ってアンケートに答えたが、施策に反映できるようにアンケート内容を考えたほうが良いのではないかと。
大江会長	審議会委員が行政のやること全てをやるわけではない。行政はプロとして日常的にやっており、我々も色々なものを抱えながらやっている。大事なことについては事前に出してもらって、まとめてくれたものを違った視点から判断するのが我々の役割だ。細かいところまでやらされたら我々の日常がなくなってしまう。そこについては常識の範囲で判断しながら、事前に出してもらったほうが良いものがあるれば、次回以降フィードバックしてもらおうことでレベルアップしていくことが大切だ。
佐野委員	そういうところを改善して欲しい。言っても何も先に進まない。留まっているのは問題がある。やらないならやらないで良い。
大江会長	行政の方でも出来ることと出来ないことがあると思うので、こういう理由で出来ない又は検討している等については、あつて然るべきだと思われるので、音なしではなくて、きちんとフィードバックしていくことが大切だ。それでは、議題（3）平成26年度一般廃棄物処理計画の策定についての審議に入る。事務局より説明して頂きたい。
小野ごみ対策課長	今までご質問頂いた部分も踏まえて、平成26年度一般廃棄物処理計画（案）について説明させて頂く。 （平成26年度一般廃棄物処理計画（案）について説明）
大江会長	今の説明について質問はあるか。
渡辺委員	難再生紙について、資源化はどのような形でなされるのか。
小野ごみ対策課長	通常の再生紙については、ざつがみ、雑誌、段ボール、古紙を含めて、古紙再生業者の方で、段ボールやトイレットペーパー等に再生利用されている。今回ご提案した難再生紙については、通常のルートとは異なるが、今まで剥がれにくかったアルミやビニールコーティングの部分を剥がす技術を持っている業者にお願いすることで、残った紙の部分をトイレットペーパー等に再生していくことで、燃やすごみの減量を図りたいと考えている。
佐野委員	量的な推定はいかがか。
小野ごみ対策課長	現時点では、1か月辺り5t、年間約60tを見込んでいます。
佐野委員	総量はどの位か。
小野ごみ対策課長	古紙の平成25年度の推定見込みは6,043tだが、6,100t程度になる。

審議過程（主な発言等）

大江会長	では、終了時間となったため、一般廃棄物処理計画策定についての審議は次回とすることとして、議題（４）ごみ減量かるたの標語最終審査結果について報告して頂きたい。
井上清掃係長	市内在住の中学生から募集して、388名、合計1,321句の応募があった。一次審査としてごみ対策課職員にて46語中、39句入選した。39句については、郵送した資料のとおりである。その39句中の「え」、「ぬ」、「め」、「る」、「ろ」の5語については入選する作品がなかったため、ごみ対策課にて作成した。また、漢字については小学校3年生までに習う漢字を使用している。句の趣旨を変えずに文言の修正やカタカナをひらがなに修正を施したものもある。まず、この39句については、入選とさせて頂いて宜しいか。
委員各位	<p>（了承）</p> <p>続いて委員の皆さんに投票して頂いた、残りの7句について各句毎に一番多く選定された句は次のとおりである。 （「つ」「の」「ふ」「ほ」「ま」「や」「よ」の7句発表） 以上の7句についても入選とさせて頂いて宜しいか。</p>
委員各位	<p>（了承）</p> <p>この46句を基にかるたを作成して、学校や保育園等への配布及び標語や絵をポスターにして市施設等に掲示、また、かるた大会等を行ってごみ減量意識の向上を図っていく予定である。</p>
加藤委員	市報にも出すのか。
井上清掃係長	その予定である。
清水委員	かるたには普通「ん」を入れるものなのか。
井上清掃係長	入っているものと入っていないものがあるが、今回は入れる形にしたい。
清水委員	かるたは幾つくらい作るのか。
井上清掃係長	120セット作成する予定である。小学校、中学校、幼稚園、保育園等への配布、かるた大会の実施、その他貸出等も検討して有効に利用していきたい。
加藤委員	全額補助金を使って、市から経費は出さないのか。また、補助金額はどのくらいなのか。
小野ごみ対策課長	その補助金は、かるただけではなく、着ぐるみの製作を含んでいる。くるカメくんの着ぐるみを1体作って、市民まつり等のイベントでこきんちゃんの着ぐるみとかぶることのないように工夫をしながら活用していきたい。補助率について

審議過程（主な発言等）

	は10分の10で市の持ち出しはない。金額は合計320万円である。
佐野委員	かるたを150作るのも500作るのもコストは変わらない。
清水委員	中学校に配布するのはいかがなものか。数が少ないので子供会や児童館等配布先をよく考えて有効活用して欲しい。
小野ごみ対策課長	今回、中学生に標語作ってもらっている関係上、各校1セットずつは配布したい。数に限りがあるので、有効活用して無駄のないようにしていく。
清水委員	図柄は入るのか。
小野ごみ対策課長	ごみ減量キャラクターは東京学芸大学と連携して作ったものなので、絵札を作ってくれるようお願いしている。
加藤委員	子供会や学童保育等への配布も考えて頂きたい。
小野ごみ対策課長	引き続き検討して行く。
清水委員	参加した中学校は何校か。
井上清掃係長	市内の全校である。
大江会長	先程の発言にあったが、コストが変わらないのであれば、需要を訊いて増えそうであれば、150セット位必要かどうか検討しても良いのではないか。
小野ごみ対策課長	未だ絵柄が出来ていないので、出来てから業者に印刷をお願いすることになる。単価等を踏まえて個数を考えて行きたい。
大江会長	その他に移る。事務局より説明頂きたい。
佐藤減量推進係主任	(平成25年度廃棄物減量等推進審議会年間スケジュール(予定)を説明)
松村副会長	提案がある。平成26年度の処理計画は前年度の内容とほぼ同じであり、目標を達成できない見込みである。同じことをやっているとまた同じことになる。施策が沢山あるため、かるたは具体的な案が出たが、施策に沿って何をやるのか具体案を少なくとも一つずつ示してもらって、これをやれたかやれなかったか、結果がどう変わったか、これくらいのことはやらなければならないと思う。
大江会長	優先して取り組む施策と充実させて取り組む施策について具体的にということか。
松村副会長	努力目標は良いが具体的に何をやるのかが必要である。このままでは同じ結果になってしまうのではないか。

審議過程（主な発言等）

加藤委員	平成26年度の処理計画は難再生紙とごみ減量かるた以外は、25年度の施策と変わらない。
大江会長	行政に期待ばかりしないで、ここで一人ひとりがアイデアを出すという気構えも大切だ。
佐野委員	去年は意見を出すのは意味がなかった。言っても予算がついてない等の理由で却下された。果たして、行政が受け入れてくれるのか。
大江会長	アイデアを出して見ることは大切だ。出ている施策の中で知恵を出し合い、審議会として意見を伝えることも必要だ。
佐野委員	副市長が公務で退席したのはもったいない。
大江会長	時間が許すところで大事な会議の時は参加して頂くといくことでいかがか。
清水委員	市の担当も変わったので、担当名簿を作成してほしい。
大江会長	是非、作成してもらいたい。
佐藤減量推進係主任	委員報酬については、昨年度と同様、開催月の翌月の10日頃までに指定口座に振り込ませて頂く。昨年度と指定口座に変更がある場合は申し出て頂きたい。また、支給明細書については次回の審議会の際に配布する。
	閉会